

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	郡上市立幼児教育センターみなみ園		
実 施 期 間	平成26年11月26日（水）		
実 施 概 要	<p>◎食育・ボランティア（保護者）さんと共に調理実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や近所など身近な地域で育てている里芋を自分たちで育てる。 ・収穫した里芋を利用して、給食や家庭で出ている豚汁や芋もち作りを自分たちで作ってみる。 		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input checked="" type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 産業 <input type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input type="checkbox"/> 授業公開 <input type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数	保 護 者	1 2 人	計 1 2 人
	地 域 関 係 者	人	
実 施 状 況	<p>◇事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 園の畑で種芋の植え付けを行った。 ・里芋の水やりや草取りなど行っていく中で、成長していく様子を発見したり収穫を楽しみにしたりする喜びを一緒に味わった。 ・植え付けや成長の様子を振り返りながら、調理して食べることを楽しみにして里芋の収穫を行った。 ・収穫した日にすぐ里芋を洗い、みんなで茹でて食べることで、育てた喜びを感じながら活動へ期待を高めることが出来た。 ・調理を行ってくれる保護者ボランティアを募集した。 <p>◇当日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ（園児5～6名の8グループ）に保護者の方1～2名ついて頂き豚汁の具材を切っていく。その中で、ボランティアさんに教えてもらいながら安全で正しい包丁の使い方を覚えることが出来た。 ・園庭で大釜を使って調理する。大人が煮炊きを行い、幼児は具材が入った様子や、煮えてきている様子を、食べるのを楽しみにしながら見ていた。 ・芋もち作りは、袋にご飯と里芋を入れて混ぜた。一人ひとり焼いてもらい自分の作った物を食べた。 <p>◇事後活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信にて活動の様子を具体的に知らせたり、保護者の方が参加されていない家庭でも作れるよう、レシピを知らせた。 ・給食に収穫した里芋を使用してもらい、今後も作った喜びを感じられるようにする。 		
成 果 及 び 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・水遣りやお世話を通し、成長していく里芋の変化に気付き共感していく事で、喜びや期待につながった。 ・収穫した日、里芋を茹でてすぐ食べたことで、“自分たちで作った”という気持ちがより感じることができた様子であった。また、そのままの素材を味わうことができた。 ・里芋が好きな子も苦手な子も、「美味し～！」「おかわり～！」と喜ぶ姿が多く見られた。 ・活動終了後、子どもたちの嬉しそうにしている表情や「またやりたい！」「本当に美味しかったなあ。」というつぶやきから「育てる・作る・食べる」という食育のねらいを達成できたのではないかと感じた。 ・保護者の方からは、「普段通りの子ども達の様子が良かった。（友達との関わり、行動…）」や、子ども達が美味しく食べる姿から「家庭でも作ってみよう」という意見を聞くことができた。また、自然な形でいろんな子どもたちと関われ、保護者自身楽しめた。 ・一連の活動を通し、人に（保護者・周りの大人）に寄り添ってもらいながら、優しく関わってもらった嬉しい気持ちを、今度は自分たちが人のために何か出来る嬉しさや喜びが味わえるよう、地域の老人福祉施設へ訪問し触れ合い交流をする。 		